

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200264		
法人名	有限会社 セカンドライフ		
事業所名	グループホーム 北のくにくから(1階)		
所在地	恵庭市島松本町4丁目8番25号		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvossyoCd=0171200264-008&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和6年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角に居を構えており、各ユニット内にはホーム敷地内全体を見渡すことが出来る大きな窓があり、そこから映る景色を見ながら、入居者様が季節の移り変わりを常に感じていただけるような作りとなっています。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染予防の観点から地域とのかかわりが疎遠となっていた状況が続いていましたが、5類に移行後からは会議構成員を交えた運営推進会議を感染対策に留意しながら再開することが可能となり、以前のように地域の方をホームに招き入れ直接顔を合わせながら意見や情報の交換が出来るようになったことで、少しずつではありますが地域の社会資源の一つとしての役割を果たしていける状況に戻りつつあると実感しています。季節ごとのイベントには力を入れており、入居者様に楽しんで頂けるよう入居者様と企画立案をし和気あいあとした雰囲気の中で穏やかな時間を過ごすことが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム北のくにくからは、恵庭市郊外の住宅地に位置する2ユニットのグループホームです。近隣には高齢者施設や保育園などがあり、交流を行っています。住み慣れた地域でできる限り暮らしたいという利用者の思いに応えるため、医療との連携に力を入れています。事業所では、楽しみながら健康維持をすることに力を入れています。日々の散歩や、事業所内での階段や廊下を活用した生活リハビリの他、プロ野球チームの応援団のダンスをみんなで踊っている様子をSNSに投稿し、コロナ禍で面会が難しい家族に配信しています。災害時の発電機の導入など、利用者と職員の安全の確保にも積極的に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で笑顔に満ちた生活」の理念に沿った介護に努めている	理念を実践するために、目指す支援について職員同士が話し合い、助言し合っています。利用者が笑顔で過ごすために職員に求められる技術や知識、態度などについて研鑽しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前はお祭りや清掃活動などに参加していた	散歩中に近隣住民との会話を楽しんだり、庭に植える球根のおすそ分けなどの交流があります。事業所の向いにある高齢者施設の運営推進会議の参加要請を受けています。また、事業所便りを町内会の回覧板で周知しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回発行の新聞に、生活の様子、認知症という病気の理解をして頂くための記事を載せ情報の発信に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ以前は意見や情報の交換を、年2回の避難訓練を行いサービス向上に努めている	令和5年度は2回目以降から集合会議を再開し6回実施しています。事業所のモニター役として行政や地域、家族など様々な立場からの参加があります。議事録には事業所の入居者の状況、行事や研修の実施状況、ヒヤリハットなどの資料とともに、質疑の内容も記載し、家族に送付しています。	会議では、ヒヤリハットの内容を含めて詳しく報告していますが、同じような事例が解決に至らず続いている状況があります。分析を行い、会議で改善策やアドバイスを受けるなど、解決に向けた取組を期待します。また、家族参加者の拡大についても、呼びかけを継続していくことを望みます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ以前は2ヶ月に一度運営推進会議にて現状報告をしていました。現在事業所内開催の為文書にて報告しています。	市からの情報提供として、BCP(業務継続計画)やICT(紙媒体の使用から介護ソフトの活用等を促す取組)化の説明会に参加しています。その際に、事業所としての意向を伝えるなど、双方向での意見交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加、毎月個人カンファを行いケアのチェック見直ししている。外部からの侵入防止の為玄関の施錠。	身体拘束適正化委員会の開催に合わせて職員全員が担当ユニットの全利用者に対して具体的な禁止項目(11項目)に当たるケアがないかチェックを行っています。また、スピーチロックについても職員同士で気になる場合に話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、新聞や介護誌等に掲載された記事の回覧、それについての意見交換を通しお互いのケアの振り返りを行い予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し勉強の機会を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明してサインを頂いています。不明な点は口頭にてお伝えしています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接話せる雰囲気づくりをしています。お便りや介護計画の説明時にご意見を聞き運営に反映している。	コロナ禍のため、家族と利用者の直接の面談を制限せざるを得ませんでした。家族が事業所の外から、中にいる利用者の顔を見るなど、直接の会話や触れあいができないため、Instagramなどを活用し、利用者の様子を発信し、家族からの意見を引き出しやすいよう工夫しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議にて意見提案を聞く機会を設けている他にも朝夕の送りの時や空いてる時間などで意見や思いを言える環境関係ができています	会議では、意見は職員からボトムアップして、運営に反映するようにしています。職員からの自由な意見が出るように会議でも話しやすい雰囲気を作っています。また、ユニットリーダーが個別面談を行い、職員の働き方の希望を聴取し、長く働ける職場環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任や各ユニットリーダーに入居者受け入れ、職員指導、医療的判断以外の対応や方向性の決定権を持たせている。資格手当や処遇改善を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはオリエンテーション、指導者の付をし育成している。資格取得のための研修の提案、休みやシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のGHネットワークに参加しグループラインやリモート会議などでコロナ禍でも交流している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状況確認や希望を聞き「暫定介護計画」と共に職員への周知をすることで対応が適切にできるようにしている。入居後は変化を観察し、それに対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から不安要望などを話していただき対応するよう努力している。その後いろいろな方法で良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が望む支援を見極め、そのほか利用できる支援を含め必要支援が出来るよう努める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望に沿い、出来る家事やレクリエーション、庭の手入れなどコミュニケーションを取りながら行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ以前は、行事の際にご家族にも声掛けして共に過ごしてできる範囲内で介助もしていただいていた。ご家族と外出も積極的に進めていた		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた知人からはがきが届いたりしている。職員とドライブがてら自宅や自宅周辺を見に行くこともある。	入居前の近隣の知人が事業所を訪問したり、畑で収穫した野菜を持って遊びに訪れています。また、事業所から声掛けをして知人の訪問を促すようにしています。感染症対策を取りながら、ドライブで自宅の近隣や好きな場所に行くなど、利用者の気持ちに応えています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係が持てるよう見守り、観察を基に仲介している		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、家族の相談に対応している。また、退居後も農作物など届けに来て下さっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、ふとした言葉や表情から思いを察し本人が伝えやすい環境づくりをしている	利用者から希望が伝えられた際は、職員がどのように希望を叶えられるかを検討しています。入居前からの価値観を尊重し、大切なものの管理の仕方や一日の過ごし方など、日常的に得られた思いを大切にしています。言葉にできない場合も表情や仕草などから推し量っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの情報記録からこれまでの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子を観察し、安心して個々の力を発揮しながら楽しく暮らしていただけるよう支援していく		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファでモニタリングを行い、必要時定期的に評価を行っている。本人には日々の中で、家族には面会時意向確認し計画を立てている	アセスメントは利用者ごとに3~4か月に1回実施し、家族の意見を文書でも確認しています。計画作成のためカンファレンスを行い、職員の意見を交えて検討しています。目標の達成度を図り、定期的な更新の他、介護度が変わった場合も検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで気になること変化を記録し、こまめに情報交換し共有している。計画見直しに活かす		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応するよう努めているが困難な場合は他の機関への協力を頼んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩などで地域の人たちと面識を持ち、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう支援		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、訪問診療、往診で入居者の体調の変化の情報を伝え適切な医療が出来るよう支援します	かかりつけ医は本人と家族の希望で決めることができます。通院対応は事業所で行っていますが、家族と共に行く場合もあります。2週間ごとに訪問診療を受けています。休日も体調悪化の場合は訪問医療を受けることができます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師訪問看護師にも状況を伝え、確認してもらい必要に応じ、受診や看護を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には早期退院に向け病院と連絡を取り状態の把握や受け入れに努めている。研修会や市の定例会議で情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居者に「重度化した場合の対応方針」を書面で説明して署名、捺印を頂いている。状況に応じ、本人、家族、事業所で十分話し合い医師の協力の元、現状と今後起こりうる状態を説明し、方針を共有しチームで取り組んでいる。本人家族の希望により看取りも行っている	医療面での連携体制を整え、事業所で最期まで過ごしたいという希望に応えています。入居時に事前確認書で事業所の方針を伝え、本人の意向も確認しています。その後も医師からの説明などを行い、揺れる家族の心境に寄り添い、医師や家族とともに利用者と一緒に支えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は緊急マニュアルに沿って適切な対応ができるよう、ホーム内研修等を行っている。急変時に対して個別に対応が記載されており、実際の対応時には振り返りも行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は年2回消防署立ち合いで災害、避難訓練を実施していた。コロナ禍で感染症を優先し出来ていなかったが令和4年6月より再開する。	自主避難訓練は、夜間想定で2回実施しています。発電機を導入し、事業所内の安全点検を行っており、家具や食器などが地震で転倒したり飛び出さないよう安全装置を設置しています。BCP(業務継続計画)の策定は市のひな形を参考に年度末までに作成する予定です。	令和6年度から地域へ避難訓練への参加を呼び掛けていく予定となっています。BCPの実施とともに、様々な災害を想定し、非常時の利用者と職員の安全を守り、職員一人ひとりが避難の判断などができるよう訓練していくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際には本人に声掛けをしています。記録については他入居者の記載時、人物特定が出来ないようにイニシャルで記入。排泄時は他の方に聞こえないよう耳元で伝えている。	利用者の居室には鍵があります。職員は利用者のプライベートスペースとして、入室前に利用者から許可を取っています。理念を実践し、利用者にとってのあたりまえの生活を支えるために、声掛けや支援の方法について職員同士で気を付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを確認するような環境づくりは出来ている。性格上表現しない方の対応には受容的に接している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り一人一人の生活スペースに合わせて過ごして頂くよう職員間で情報を共有し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪、髭剃りや服装等身なりが整っているか、常に気配りをしている。季節に応じた身なりになるよう配慮している。希望者にはマネキュアや入浴後にカーラーをつけ望みのヘアスタイルになるようしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食事の片付けなど分担して行っている。ホームの畑で収穫した野菜を使用したりしている。	ユニットごとに、その日利用者が食べたいものを作っています。チラシなどを見ながら、利用者の希望を聞き、旬のものや食欲をそそる見た目などにも配慮しています。お弁当を作って公園や戸外で食べるなど、季節ごとの楽しみも取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患、好みに応じた分量や形態で接種できるよう努めている。水分量、食事は毎日記録し集計して確認をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々に合わせて見守り、介助で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を表現できない方は排泄の一覧表を作り排泄リズムを把握し、適切なタイミングで声掛けし誘導。自立で排泄できるよう支援している。失禁が多くなって来られた方は下着の工夫などして不快にならないよう配慮している	オムツの使用者や、バルーンカテーテルの利用者もいますが、訪問医が泌尿器科のため、適切な管理ができるよう、診察や看護師の配置により日々の支援を行っています。排泄の自立とともに、家事の自立も支援し、自宅復帰できた利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動、バランスの取れた食事、おやつにヨーグルトの提供などをし予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本週2回以上の入浴ができるよう取り組んでいる。その日の身体、精神状況や受診日、行事等の予定を踏まえたうえで、本人の希望や意思を尊重した時間帯で行っている。	利用者の入居前の習慣や生活リズムも検討し、入浴支援を行っています。職員からの声掛けの方法や、利用者が入浴する気分になるような場面作りの工夫を行っています。安心して入浴できるよう、職員2人体制での支援も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は個々の希望に応じた休息を取っていただき、夜間も良眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルで確認できるようにしている。変更がある時は記録し申し送りをしている。月に1回や週に1回などの薬はカレンダーに記入し必ず朝夕の申し送り時に送っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望や力にあった役割や散歩、体操、レクリエーションなど楽しんで取り組んでいただくよう支援している。(買い物はコロナ禍で自粛しています)			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、本人の希望に合わせて散歩に出かけている。コロナ以前は買い物やドライブにも出かけた	日常的に15分程度の散歩を欠かさないようにしています。自分で歩ける利用者だけでなく、車いすを利用している場合もできるだけ近所の散歩に出かけています。コロナ禍でも閉塞的な生活とならないよう、感染対策を行い外気浴などで気分転換を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族と相談しお金を所持し、買い物に同行し支援している。家族の同意を得た方は自己管理も支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて家族や友人と手紙や電話が出来るよう支援している。家族の同意で携帯電話も自己管理で使用している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いフロアーに大きな窓があり光や照明、湿度、温度管理をしている。壁面には季節、行事に合わせた展示物を飾り、玄関前には四季折々の花や野菜を植え、居心地よく過ごして頂く工夫をしている	共用空間は、冬期間でも温度差が生じないようにしています。また、夏は暑い日が増えてきたため、エアコンを導入しています。談話しながら折り紙や塗り絵をしたり、時間を忘れて取り組めるパズルに挑戦するなど、利用者は居間で思い思いに過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには長椅子、コーナー椅子一人用椅子があり友人と話せる場所、テレビや読書、音楽等入居者のニーズに合わせた空間づくりをしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し本人が使い慣れた家具や好みの物を置き使用することで心穏やかに過ごせる工夫をしている。また、清潔保持にも努めている	鍵のかかる個室で、利用者は入居前の生活とのつながりを感じられるような、家族との思い出の品や趣味など気に入ったものを使用しています。職員は利用者の居室はプライバシーを守れるよう配慮し、災害時に備え家具の配置や固定を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口に手作りの表札を掛け、トイレにも貼り紙をして自立した生活が出来るよう工夫をしている			